

## 「ぶんぶんひろば」における授業の実践 「遠隔ボランティア」

### 1. 「遠隔ボランティア」実施の経緯

令和3年8月九州北部を中心とした豪雨災害が発生した。筆者はこれまで東日本大震災以降、災害時の子ども支援活動に取り組んでおり、今回もまた災害発生の日々には佐賀県に入り、武雄市、大町町といった今回の豪雨被害が甚大であった地域での支援ニーズに関するヒアリングを実施した。

その結果、武雄市にある放課後等デイサービス「ガラパゴス」(図1)が床上浸水の被害を受け、同施設で使用していた教具等の一切が土砂をかぶってしまっていた。こうした災害は障害のある子どもたちにとっても日常を奪われることとなり、結果として深刻なニーズが発生する可能性は想像に難くない。しかし、スタッフの多くがこうした教具の洗浄に時間を取られ、その時間を少しでも子どもたちと向き合う時間にしたいという申し出があった。



図1 ガラパゴスでの聞き取りの様子

他方で、いくら感染対策をしようとも広島をはじめとする県外からの支援者を派遣することは、現在に至るまで猛威をふるっている新型コロナウイルスの状況を鑑みれば困難であった。そこで今回は武雄市から教具等の洗浄を要する一切を本学に送り、本学で洗浄を行った上で返却するという「遠隔ボランティア」に取り組むこととした。

### 2. 「遠隔ボランティア」の概要

日時：2021年8月29日～9月10日

場所：ぶんぶん広場

ボランティア参加者：子ども学科1年生1名と2年生3名、教員2名(山中助教および伊藤)がコアメンバーとなり実施した。また当日のボランティアは1～2年生から参加希望者を募り実施した。

物量：概算で100kg。ダンボール6箱に分かれていた。

### 3. 「遠隔ボランティア」の様子

遠隔ボランティアの様子は図2や3の通りである。幸運にも天気には恵まれ、外で作業することに困難はなかった。



図2 取材を受けながらの洗浄



図3 洗浄の様子

### 4. 「遠隔ボランティア」の成果

新型コロナウイルスの流行から学生がボランティアをする機会は著しく減少している。そうした中で、遠方でもできるボランティアの姿を一つ提示できたことは大きな成果だと考えている。なお、ボランティアの様子は読売新聞およびRCCテレビにて取り上げられた。最後になるが、ボランティアに協力してくれた皆さまに御礼申上げたい。

(文責：学芸学部子ども学科 伊藤 駿)